



令和3年度  
日本財団助成事業

医師・助産師・カウンセラー等  
専門家による妊娠期からの虐待防止事業  
実施報告

認定特定非営利活動法人はっぴいmama応援団

令和4年3月

<1> はじめに	1
<2> 法人概要	1
<3> 法人の事業概要	1
<4> 新型コロナウイルス感染症対策	2
<5> 実施事業の内容と結果・成果	3
(1) 育児相談会および子育て力向上講座	
(2) 虐待防止のためのメンタルヘルス事業	
(3) 各専門家による個別相談	
(4) テイクアウトランチ提供	
(5) 他機関との広報活動	
<6> 事業参加者の満足度調査	10
(1) 参加者の満足度	
(2) 法人の活動や行政・民間の子育て支援への要望など	
<7> コロナ禍における「妊娠期からの虐待防止事業」の現状と課題	11
～コロナ禍における子育て家庭の現状と課題～	
(1) コロナ禍における妊産婦・子ども・子育てへの影響	
(2) 妊娠期からの関わりの重要性	
(3) コロナ禍における「妊娠期からの虐待防止事業」	
①身体的サポート	
②メンタルサポート	
③子育て技術の習得のための支援	
④レスパイトの必要性	
⑤支援体制の確保・強化	
<8> まとめ	19

## 医師・助産師・カウンセラー等 専門家による妊娠期からの虐待防止事業を展開して

令和4年3月吉日  
認定特定非営利活動法人 はっぴい mama 応援団 代表理事 松山由美子

### < 1 > はじめに

2021年に始まった新型コロナウイルス感染症拡大に伴う生活様式の変化は、妊娠・出産・育児を取り巻く環境にも大きな影響を与えた。2年が経過する現在、母子保健サービスは縮小された状態が定着し、人との接触を最小限にした中での支援が展開されている。コロナ禍による影響や今後予測される課題など、支援活動を継続してきた中で見えてきた現状と課題について報告する。

### < 2 > 法人概要

2009年より助産師・保健師・看護師を中心とし、保育士・先輩ママ等、母親のために何か提供したいと集まった有志により任意団体「はっぴい mama 応援団」を結成。新潟市西区にて一軒家で子育てサロン「はっぴい mama はうす」を開設。保健師・助産師などによる育児相談ができる居場所の提供や各種講座を開始した。

2013年より「専門職による産後デイケア・訪問ケア事業」に取り組む。

2015年6月、特定非営利活動法人はっぴい mama 応援団を設立。

2016年5月、新潟市中央区のよいこの小児科さとうの併設施設

「親とよいこのサポートステーションはっぴい mama はうす」(以下当施設)に活動拠点を移す。

2020年10月 認定特定非営利活動法人となる。

### < 3 > 法人の事業概要

任意団体設立以来、妊娠中からの全妊産婦を対象と捉え、妊娠育児相談会や居場所の開催、産前産後のデイケア(日帰り滞在型)・訪問ケア事業を中心に「妊娠期からの切れ目ない支援」を展開。専門職が中心となり、小児科医との協働事業として活動し、医療ケア児への対応やその養育者への支援も行っている。また、心理カウンセラー等との連携により母親へのカウンセリングを実施、メンタルヘルスにも取り組んでいる。必要時には、行政・医療機関・児童相談所等公共機関と連携し、身体的・精神的・社会的な包括的支援を行っている。

また、日中車がない家庭や産後早期の母子で外出が不安な時期の当施設への送迎支援や、居場所でのランチ提供などにより、居場所やデイケアなどを利用しやすくなるようにし、引きこもり・孤立化防止に努めている。

産前や産後早期から関わることは、妊娠期の自殺・ネグレクト等の虐待、産後うつ等の予防に効果的な事業である。また、社会全体で子育てを支える意識が高まるよう、民間企業や行政との協働やメディアを活用し、当法人の事業内容や子育て支援の必要性をより広く周知する活動も行っている。

## < 4 > 新型コロナウイルス感染症対策

随時、新潟市内および全国域での感染状況を把握し、新潟市の対策基準に準じて、当施設に合わせた基準を設けて下記のような対策を講じた。

- ・利用者・スタッフ共に、体調確認の上での、マスク着用・消毒等実施の上での施設利用
- ・施設の消毒、換気の実施
- ・施設内での飲食の制限
- ・感染者や濃厚接触者となった場合の自宅待機期間の設定
- ・感染多発地域関連の方との接触後の体調変化の有無の確認 等々

参照) まん延防止等重点措置期間のフローチャート

はっぴいmamaはうすの施設ご利用者の皆様へ

はっぴいmamaはうすの施設を利用されるママとお子さんについて、ご確認ください

1 施設を利用される10日前から発熱や風邪症状はありますか？

↓ 発熱や症状はありません

2 2週間以内にママとその同居家族が感染者や濃厚接触者との接触はありましたか？

↓ 接触はありません

3 上のお子さんの園や学校は休園や学級閉鎖になっていませんか？

↓ なっていません

4 2週間以内に感染多発地域への移動や関連の方との接触はありましたか？

↓ 移動や接触はありません

施設をご利用いただけます

※ 発熱やかぜ様の症状がなくなって10日間経過してからのご利用をお願いしています。  
詳細についてはご相談ください。  
感染多発地域への移動や関連の方と接触のあった方も詳細はご相談ください。

新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じて、利用基準は変更になる場合があります。

日々の感染症対策を講じながら、まん延防止等重点措置期間などは、個別での対応（デイケア・訪問ケア、個別育児相談、カウンセリング）は継続し、集団での交流は避けるため居場所事業は中止した。講座等は、4組限定と更に定員を減らして、密を避けて実施した。

テイクアウトランチは、「応援価格」を設置し、予約制、時間指定にて施設へ来所しての購入とした。状況に応じて、車から降りずに受け取れるよう駐車場までスタッフが届け、距離をとっての会話はするが、最小限の接触とした。

## < 5 > 実施事業の内容と結果・成果

### (1) 育児相談会および子育て力向上講座

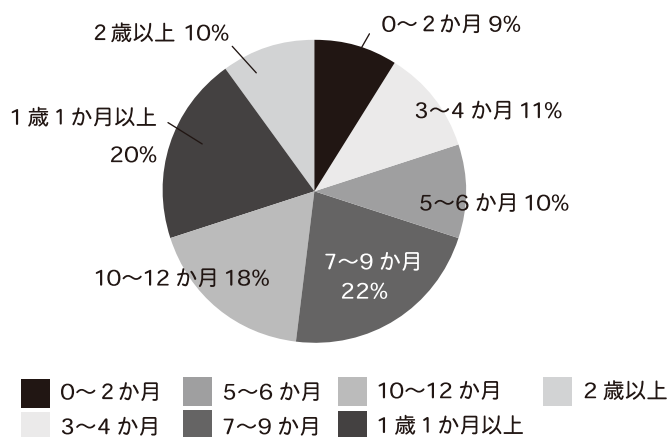
#### 【目的】

育児相談会や講座により、医師・助産師等に気軽に相談し専門的知識を得ることができ、不安の軽減や子育て力の向上を図る。

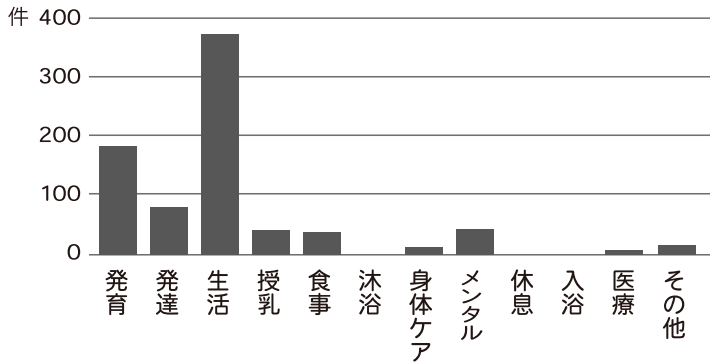
#### 【内容および結果・成果】

事業および対象者	内 容	開催回数・参加者数
① 育児相談会および居場所事業 「ミニサロン」	専門職への育児相談会を開催しながら、同じような発達段階の乳幼児と養育者同士、交流することができる。まん延防止等重点措置期間中は、オンラインに変更して行った。 コロナ禍より短時間・予約制・少人数（6組程度）に変更。主な相談内容は、図②参照。	122回開催 延べ530組参加 ※妊婦10名含む オンライン開催113組
② 小児科医の発達相談会	居場所で、小児科医より病気のこと、身体のこと、感染予防など、子どもについてのテーマで知識提供を行い、母親からの質問に答える。対面とオンライン併用で実施。	12回開催 延べ53組参加 ※オンライン参加42組含む
③ 妊娠期から取り組む子育て力向上のための講座 「マタニティクラス」	マタニティクラス 母親（両親）学級 妊婦や夫、その家族等を対象に、妊娠中の気になることや産後のことについて助産師による知識提供の場、参加者同士の交流の場ともなる。	4回開催 延べ5名参加
④ 離乳食講座	離乳食開始直後や手づかみ食べるの時期など、離乳食の進行の段階に近い児のグループを対象として、身体的発達についての知識の提供により専門職が母親の悩みに応えた。また他児と一緒に食べる機会を設け、気持ちや情報の共有、交流の場を提供した。	2回開催 延べ7組参加

<図①> 育児相談利用者の月齢



<図②> 育児相談における相談内容



【表①】【育児相談・デイケア・訪問ケア等での相談における項目別具体的ケア内容】

項目別ケア内容の実際	
発 育	体重測定。発育状況の確認。
発 達	発達に関する相談。発達を促す対応など。
生 活	お世話の仕方（抱っこや寝かせ方、抱っこひもの使い方など）・ふれあい遊びなどの指導・助言。睡眠・清潔・活動など生活に関する相談。
授 乳	母乳・ミルクなど授乳の量や回数、授乳時の児の姿勢など。
食 事	離乳食や食事などの栄養や食べ方、食材の形状などに関する相談。
沐 浴	沐浴の実施・指導。
身体的ケア	母親の身体的な主訴に対する指導・助言。（骨盤ケア・体操・冷え取り等セルフケア方法等）
メンタルケア	精神的負担の強い母からの話を聞く、傾聴、寄り添い、カウンセリング等精神的な支援。
休 息	母親が個室で布団で休息をとる。
入 浴	母親の入浴。
医 療	受診勧奨。医療的ケア・観察等。

【参加者の声】

① 育児相談会（ミニサロン）等

- ・心配なことや、うまくいかないことなどをミニサロンで解消できるので、日頃安心して過ごせる時間が長くなりました。
- ・わからないことが解決でき、育児に対する不安軽減につながりました。
- ・手探りでやってたことが間違っていなかったと安心できたのと、具体的な工夫やアドバイスをいただけて目から鱗でした。
- ・コロナでなかなか人と関われないので、ストレスが緩和されるし、娘の刺激にもなります。（オンラインサロン）
- ・欲しいと思っている情報をしっかり受け取れて、不安点をたくさん話すことで、出産に向けて気持ちを整える事ができました（妊婦）

② 小児科医の発達相談会

- ・どんな質問にもはっきりとお答えいただけたのですっきり解決して助かりました！また、先生のお人柄も誠実で楽しい方でしたのでこちらもリラックスして質問することができました。
- ・病院を受診するまではいかない、ちょっとした不安を解消できて気持ちが楽になりました。

③ マタニティクラス

- ・初めての出産で不安なことばかり考えていましたが、できることをやれる範囲でやろうという考えになりました。

④ 離乳食講座

- ・離乳食を食べなくて悩んでいましたが、アドバイスなど頂き前向きになりました。
- ・離乳食が進まないことを受け入れられず焦っていたが、お話を聞いて頂き娘の気持ちを考えながら落ち着いて対応できるようになった。

## (2) 虐待防止のためのメンタルヘルス事業

### 【目的】

子育て中の精神的負担を軽減し虐待防止、産後うつ等の予防ために、専門家が産後早期から関わり虐待・産後うつ等の早期発見・早期対応を目指す。

### 【内容および結果・成果】

メンタルヘルス事業	内容・目的	開催回数・参加者数
① 座談会の開催	心理カウンセラーが進行を努め、6組程度の少人数で気持ちを話せる座談会を設ける。 講師：心理カウンセラー	12回開催 延べ54名参加 オンライン開催1回7名含む
② 子育てに活かす心理学講座 (虐待防止プログラム)	心理に関する知識提供を行い、参加者同士が話す場を作ることによって、自分自身に気づく等、精神的負担の軽減を図る。	24回開催 延べ70名参加
③ 個別カウンセリング	心理カウンセラーによる個別のカウンセリングを行う(1回90分程度)	延べ63件

### 【参加者の声】

#### ①座談会

- ・子育て支援センターは子どものことが中心になるけど、こちらはママの支援もしてくださるのでとてもリフレッシュになっている。
- ・解決感情とラケット感情の仕組みがわかりやすかった。日常の自分の感情を分解して理解できることを取り組んでみたいと思いました。あと子どもにも同じように声かけして行ってみたいなと思いました。
- ・自分のネガティブな感情も、大切にしていきたいと思いました。
- ・なかなか相談できる場がないので気持ちを支えてもらっています。

#### ②子育てに活かす心理学講座

- ・心理学講座で、子どもとの関わりや、自分について集中して考える時間を持てることが貴重です。また、1ヶ月後まで振り返りをしながら家庭で実践できるので、学んだことを活用したい仕組みがあります。
- ・自分の不安ばかりに意識がいきがちですが、少しずつ子ども自身がどうなのか？という風に考えられるようになってきました。
- ・メンタル講座で「依頼はするけど期待はしない」という考え方を教えていただきました。まさに自分に必要な考え方だなと思いました。また、問題行動は、不快を快に変えようとして起こるものの、結局別の不快を生み出しているという点にもハッとしました。
- ・心について話せる仲間、このような場に感謝の気持ちでいっぱいです。みなさんに勇気づけられました。
- ・心理学講座は、受講→日常で実践→次の講座で振り返りの機会を持てるサイクルがとてもいいなと感じています。

#### ③個別カウンセリング

- ・別々に思っていたモヤモヤとモヤモヤのつながりを示していただいたことで既に大きな発見があり、自分でどうにもならないと思っていた気持ちが腑に落ちました。息子を預かっていただいたおかげで、集中してお話できました。

### (3) 各専門家による個別相談

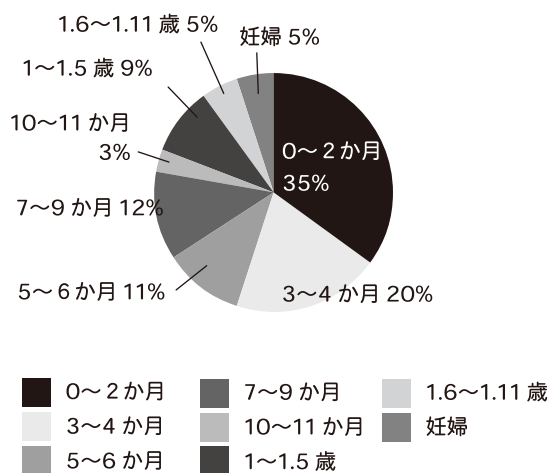
#### 【目的】

相談内容に応じて、専門職が個別で対応し、より個々に寄り添った支援を提供し効果的な支援を行うため。効果的な支援を実施することによって、心身の負担の軽減を図り、ネグレクト等の虐待防止、産後うつ予防等に期待したい。感染拡大時、妊産婦の孤立化を防ぐため感染症対策を講じながら個別対応は継続した。

#### 【対象】 産前産後の妊産婦

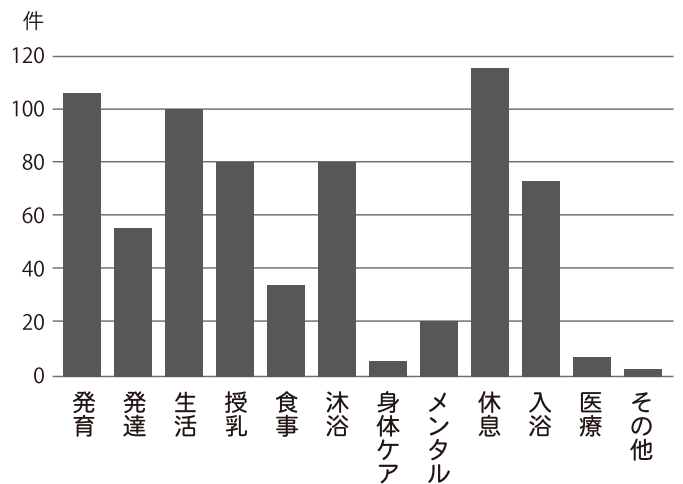
事業および対象者	内容	開催回数・参加者数
① 妊産婦育児相談	1回 30～90分 相談内容に応じて専門職（助産師・保健師・看護師等）が個々の相談に応じる。希望時、オンライン相談対応	延べ 66 名 ※オンライン相談 5 名含む 産前 10 名 産後 56 名
② デイケア (日帰り型滞在) 事業	9:30～15:30 利用可。 昼食付。希望者送迎支援あり。 児は専門職が預かり、母親は入浴や個室で休憩をとることができる。 専門職への妊婦・育児相談も可能であり、心身の負担軽減を図る。 上の子を連れての利用も可能。保育士により保育対応可能。	実人数 68 組 延べ 130 組 産前：実人数 3 名 延べ 6 件 産後：実人数 65 組 延べ 124 組 送迎支援：46 名
③ 訪問ケア事業	希望者宅へ伺い、要望に合わせてのケアを行う。 (妊婦育児相談、沐浴支援、メンタルケア等)	実人数 33 名 延べ 34 件 産前：実人数 6 名 延べ 6 件 産後：実人数 27 名 延べ 28 件
④ 理学療法士による ボディメンテナンス	1回 60分 個々の身体状況により理学療法士が施術を行う。	延べ 14 名

<図③> デイケア利用者の対象児の月齢



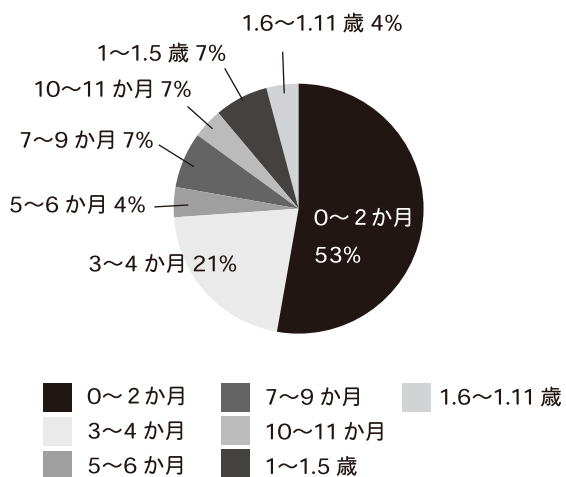
<図④> デイケア利用時の利用目的およびケア内容

(詳細は、表①参照)



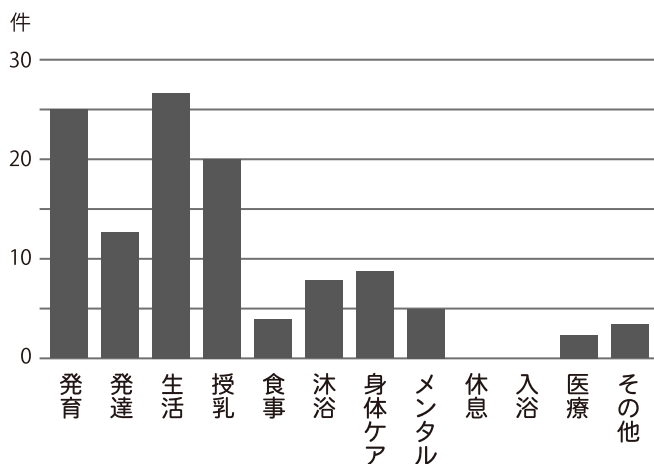


<図⑤> 訪問ケア利用者の対象児の月齢



<図⑥> 訪問ケアの際の利用目的およびケア内容

(詳細は、表①参照)

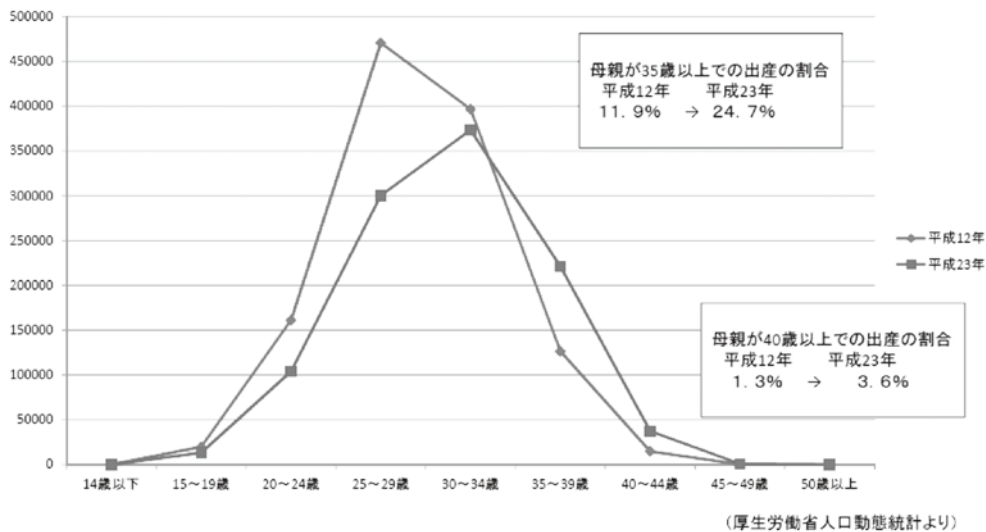


<図⑦> 母親の年齢(割合)の推移(全国)

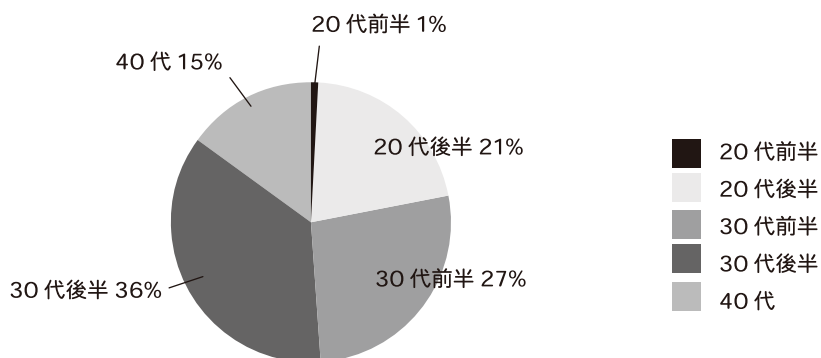
母親の年齢(割合)の推移

およそ10年間で、母親の年齢が35歳以上の出産の割合は倍増している。

出生時における母親の年齢(5歳ごと)



<図⑧> 利用者の母親の年齢



## 【参加者の声】

### ①妊婦育児相談

- ・欲しいと思っている情報をしっかり受け取れて、不安点をたくさん話すことで、出産に向けて気持ちを整える事ができました。
- ・不安が軽減した。会話ができてすっきりした。

### ②デイケア

- ・子どもから離れて寝ることで熟睡でき、すっきりとしました。子どもの世話が億劫になっていましたが少し改善されました。
- ・気になっていたことが聞けて、アドバイスを頂き、帰宅後の生活に繋げていこうと、明るい気持ちになった。体重測定なども含めて赤ちゃんの様子を見てもらえ、ここまでの生活に自信を持てた。
- ・リフレッシュになったのはもちろん、不安も話せた上に具体的なアドバイスをいただけたので、帰宅後も活かせそうだと前向きになれました。
- ・一日中専門スタッフの居る環境で体を休めることができ、その後の育児を頑張る活力になった。育児中に全く何もせず休むことは難しく、どうしても頑張りすぎてしまう。育児は他者に頼っていいんだ、と思わせてくれて、心が軽くなった。
- ・赤ちゃんは可愛いし、とても大事ですがゆっくりごはんを食べたり、休むことができるとリフレッシュできてまた頑張ろうと改めて思うことができたので利用して良かったです。

### ③訪問ケア

- ・上の子にイライラしたり、イライラする自分を自己嫌悪したりして気分が不安定でしたが、お話を聞いていただいて自分の気持ちも整理され、久しぶりに落ち着いて上の子と接することができました。ありがとうございました。
- ・コロナの影響で安産教室に参加ができず、とても不安を抱えていました。今回の支援のお陰で安心して赤ちゃんのお世話ができそうです。
- ・たっぷり時間をとってもらえて聞きたいことが聞け、おしゃべりもできたのでリフレッシュできました。
- ・もう少し気楽に育児をしていいんだと考えようと思えました。離乳食も実際に見てくださり、ネットや本よりオンラインでも参考になりました。日常生活に取り入れられる体操も教えてもらえました。

## (4) テイクアウトランチ提供

### 【目的】

以前からのランチ提供をコロナ禍よりテイクアウトランチに切り替えた。ランチ購入のために外出してくることで、引きこもり防止となり、購入時の会話等でリフレッシュを図る。家事の負担を軽減する。

### 【内容と結果】

延べ 662 個販売

### 【利用者の声】

- ・お弁当を買いに来て話せるのが嬉しい。お弁当がおいしいので、レシピが知りたいです。
- ・ランチがまた毎日になってほしい。
- ・車まで持ってきていただけるので、子どもが寝ていても助かります。
- ・いつもスタッフの皆様のおかげで楽しく参加しています。テイクアウトランチも気になってるので気軽にお邪魔したいと思いました！